



お目当ての物品を落札しようと大勢の人が訪れました



品定めをして入札金額を決めます



様々な物品が並びました

10月15日、落合総合センターで「合同公売会in真庭」が開かれました。この日は真庭市をはじめ、岡山県や鳥取県から計15の自治体などが参加。差し押さえた物品233点が出品されました。この公売会は、税金を滞納した人から差し押さえた財産を入札で売却して滞納された税金に充当し、税負担の公平性を確保することや、納税の重要性を知ってもらうことを目的としており、真庭市では初めて開催されました。来場者は目当ての品に入札金額をつけて用紙に記入し、入札箱に入れていました。

10月3日、湯原つどいの広場で「ふれあい体験学習」が開かれ、湯原中学校の3年生19名が湯原地域を中心とした乳幼児と触れ合いました。このふれあい体験学習は、日頃接する機会が少ない乳幼児との触れ合いを通じ、子どもの可愛さや親の愛情の深さ、命の大切さなどを感じてもらおうと毎年開かれています。生徒たちは緊張した様子で赤ちゃんを抱っこしたり、ぎこちない手つきで離乳食を食べさせたりしながら命の尊さを感じていました。

### 乳幼児と中学生のふれあい体験学習 命の尊さを感じて



ぎこちない手つき…でも自然と笑顔がこぼれます



LED電球の点灯で発電を確認し感激する生徒

9月21日、クリエイト菅谷で真庭高校落合校地の2年生81名が、小水力発電について学びました。最初に市環境課職員から「小水力発電は、再生可能エネルギーとして地球温暖化防止に有効」などといった話を聞いた後、生徒たちは3グループに分かれ小水力発電装置を1時間かけて組み立てました。完成後、水路に沈めると水流でLED電球が光り、その様子に生徒たちは感激しつつ、小水力発電の可能性を感じていました。

### 真庭高校落合校地 小水力発電体験 小水力発電を実際に体験





市政に関する動きの一部を紹介します

### 9/21 愛育委員会美甘支部が見守り活動

愛育委員会美甘支部が、秋の交通安全県民運動に合わせ、美甘地域で初めてとなる美甘小児童の下校時見守り活動を行いました。来年度以降は月2回程度行う計画で、今後は地域全体にも呼びかけていきたいということです。



### 10/5 セーフティーコーン寄贈式

子どもたちが逃げ込める緊急避難所「子ども110番の家」の目印となるコーンの寄贈式が草加部小学校で開かれ、JAまにわの矢谷信道代表理事専務から児童代表の6年生、池元大介さんと上原亨太くんに目録とコーンが手渡されました。



## 市長室から こんにちは!

### エスパス混声合唱団の快挙に続け!

「ぶなの森の葉隠れに〜♪」と、シューマン作曲『流浪の民』を歌うエスパス混声合唱団の歌声が会場満席2,300人を魅了している…。この感動的な出来事が、10月15日に東京文化会館で起こりました。

この日、夏目漱石生誕150年記念「漱石が上野で聴いたハイカラの音楽会」が、東京芸術大学 元教授 瀧井敬子先生 総監督の下で開催されました。瀧井先生は、エスパスホールで音楽活動などを通じて、自ら「真庭応援団」として積極的に貢献していただいている方ですが、その特別の計らいで、エスパス混声合唱団が日本を代表する東京混声合唱団と一緒に晴れの舞台に立つことができたのです。エスパス混声合唱団の指揮者 鈴木英子先生の言葉によると、「3回生まれ変わってもあるか、ないかの快挙」とのことです。

エスパス混声合唱団だけでなく、今、真庭では様々な文化芸術活動が活発になり、多くの方々が活躍しています。最近では、郷原漆器作家 高月国光さんや、書家 寺坂昌三さんらが全国レベルの受賞をされています。

プロ、アマを問わず、多数の市民が文化に親しみ、活動をすることが、真庭を元気に豊かにしていきます。未来を担う子ども達にも素晴らしい芸術作品に触れて感動する機会を与え、豊かな文化のまち・真庭を築いてまいりましょう。

また、11月3日は文化の日。敗戦後に平和な文化国家日本を建設するために、この日を文化の日にした重みをもう一度確認したいものです。



基金の有効活用に向け意見を交わす関係者

### 真庭市未来を担う人応援基金 審査会 審査員が判断や助言

10月11日、市役所本庁舎で「真庭市未来を担う人応援基金」の事業審査会が開かれました。この基金は、教育、産業、福祉などの分野において、市民の皆さんの発想を取り入れながら、人づくりにつながる政策を進めようと昨年度創設されたものです。審査には、大学教授や民間企業の経営者など、各分野に精通した7人が出席し、市民提案の69事業や昨年採択した事業について、実施の可否判断や助言などをいただきました。



自身が感じたリーダー論を話す小長さん

### 元通商産業事務次官 小長啓一講演会 第一線で感じたリーダー論

10月23日、勝山文化センターで、元通商産業事務次官で官僚時代に田中角栄元首相の秘書官などを務めた小長啓一さんの講演会が開かれました。日本の高度経済成長の第一線で活躍してきた小長さんは、職歴や学歴で人を判断しないことや、部下を叱る時は見えないところで叱り、また褒める時は大勢の前で褒めるといった、田中角栄元首相とともに働く中で感じた「リーダーに求められる資質」について話をしました。